

# 季刊マーメイド

逗子市立図書館報

第13号

2016年8月1日発行

逗子市立図書館

逗子市逗子 4-2-10

046(871)5998

<http://www.library.city.dushi.kanagawa.jp/>

## 逗子の祭

～今もなお逗子に受け継がれているお祭についてのお話です～



小坪 須賀神社の紋



葉山 森山神社の紋

平成8年度 三十三年大祭 須賀神社の絵馬

小坪の須賀神社（牛頭天王社）は、須佐之男命（すさのおのみこと）をまつる海の神として信仰されています。

天王祭（夏祭り）は、小坪全4町（南町・伊勢町・中里町・西町）が1年ごとに順番で祭りの行事にあたり、神輿（みこし）や山車（だし）が出て、祭囃子の演奏でとても賑わいます。

神輿は谷戸の天王社に安置されており、祭りの際に受取りに行きます。神輿の四方を「子若衆」「若衆」「壮年」「老年」の4組に分けて警護し、各町内が順番に天王唄を唄い、祭りを盛り上げます。

小坪 須賀神社（牛頭天王社）  
天王祭・三十三年大祭

## 〓三十二年大祭〓

33年ごとに、小坪須賀神社と葉山一色の森山神社と一緒に大祭を行います。

『三浦古尋録（みうらこじんろく）』によると、この三十二年大祭は、一千年以上の長い歴史があると記されています。

では、なぜ一緒に須賀神社と森山神社が大祭を行うのでしょうか？

それは、『古事記』に記されています。須佐之男命がヤマタノオロチを退治して、奇稲田姫命（くしいなだひめのみこと）を嫁（めと）りました。そして、宮殿を建てる場所を須賀の地に選びました。その故事に倣って「須賀神社」としたそうです。

須賀の男神と森山の女神は夫婦

であるので両神の伉儷（こうれい・夫婦）の儀式として、33年目ごとに小坪須賀神社の須佐之男命が神輿で森山神社の奇稲田姫命のもとへ渡御（とぎよ）し、7日間（明治以降は3日間）お宿りに行きます。

これを小坪では**行合祭（ゆきあいまつり）**、葉山では**神婚祭（しんこんさい）**と呼んでいます。

最近では、平成8（1996）年に行われ、次回は平成40（2028）年に行われます。

## 〓小坪の夏祭りで古くから

### 唄われる天王唄〓

天王唄はひとりが「音頭とり」となり他の者たちは合いの手を入れます。唄の最後には「オモシロヤーエ」の結びの言葉を入れます。

〓目出た目出たの若松様よ ハーヨー

枝も栄える葉も茂る ヤンデヤンデ

谷戸を今朝出て四町内を廻る

四町内の氏子が出て拜む

オモシロヤーエ



・・・続く

## 池子 神明社例祭

しんめいしやれいさい

池子神明社の祭は年に3回あり、中でも1年のうちで最も大切な7月の例祭（夏祭り）は、池子の氏子や町内の繁栄を祈ります。

かつて池子地区は寛永15（1638）年より鎌倉英勝寺の寺領でした。英勝寺は水戸徳川家ゆかりの寺であったので、神社の神輿にも徳川將軍家の葵紋（丸に三つ葉葵・徳川紋）がついています。

祭の日は、御祭神（ごさいじん）

が社の本殿からお出ましになり、鎌倉英勝寺から贈られた神輿にお遷りになって、徳川紋付き提灯を先頭に、池子の町内を巡ります。

昔は祭りも盛大で、神輿も担ぎ手によって村々を巡り、お旅所（おたびしょ・神輿が休む所）の前では、たとえ武士であつても馬に乗って通ることはできなかつたという事です。

### く神輿・屋台の装飾く

神輿にも葵紋が付いており、屋台はお宮の梁に保存されていた龍の彫刻が取り付けられ、昔の姿が復元されました。屋台幕は、約150年前に製作された由緒あるものです。

### く池子囃子（いけこやし）く

池子囃子は、江戸時代末期より受継がれてきましたが、第二次世界大戦のため35年間中止していました。途絶えてしまった伝統は、昭和50年に復興が提案されました。

その後、鎌倉十二所で演奏されている囃子が途絶えてしまった伝統の池子囃子と判明し、特訓の末、昭和52年に再び披露されました。渡御する神輿の数は減りつつも、屋台と一体となった池子囃子は、今でも夏祭りを盛り上げる重要な役割を果たしています。



## 沼間 五霊神社例大祭

ごりようじんじゃれいたさい

沼間五霊社の祭神は、天手力男命（あめのたぢからをのみこと）

とも、鎌倉権五郎景政（かまくらごんごろうかげまさ）とも言われます。五霊社は弓の神様で、権五郎景政を祀った、あるいは、景政の祖父と5人の孫を祀ったので五霊社とも伝えられています。

祭礼は境内左下段の牛頭天王を祀る天王祭です。祭礼の形は、御霊信仰（祖先の霊をまつる氏神信仰のほか、崇りをする神の祭）に基づいたもので、京都祇園会を源流としており、御霊が五郎に通じることから、悪疫払いの英霊信仰に移転し、鎌倉権五郎景政であると考えようになったようです。

祭りで使われる神輿は、明治16年に材木座の宮大工によつて造られたもので、8人で神輿を担ぎ町内を練り歩きます。1年神輿を出さなければ悪病が流行るとも言われたそうです。

## 桜山

### 六代御前供養祭

ろくだいごぜんくようさい

平氏一門が源義経らに追われ、

壇の浦で滅んだ時、平維盛の長男、六代御前はまだ12歳でした。母とともに京都嵯峨野の山里で隠れながら暮らしていましたが、源氏の追手に見つかり、北条時政に捕えられてしまいました。12歳の少年とはいえ、平清盛の曾孫であったため、殺される運命にありました。高雄の文覚上人（もんがくし

ようじん）が源頼朝に命乞いをし、六代御前は上人のもと、高雄神護寺で僧・妙覚となりました。しかし、頼朝の死後、文覚上人も謀反の罪で流刑となり、六代御前も再び捕らえられ、田越川河畔で斬首されました。

村人は六代御前を哀れみ、田越川のほとりに葬りました。毎年7月26日の命日に、六代御前供養祭が行われています。

戦前の祭礼は盛大な行事で、広場では歌舞伎芝居などが演じられたようですが、戦後は神武寺住職による護摩供養や、平家琵琶の奉納演奏などが行われています。



この他にも紹介しきれなかった逗子で行われている祭りがたくさんありま

す。今もなお、逗子に伝わる祭りをこの先もずっと大切に守っていききたいものです。

### 主な参考文献

- ・「三十三年大祭記念誌―小坪須賀神社 葉山森山神社―」 三十三年大祭編集委員会 38. Z サ
- ・「わたしたちの小坪風土記（改訂版）」 小坪地区青少年健全育成推進会 29. Z ワ-2
- ・「わたしたちの逗子2016年版」 逗子市教育研究所 29. Z ワ-16
- ・「池子のあゆみ 第3集」 池子区 29. Z イ-06
- ・「沼間の歴史」 沼間郷土史研究会 21. Z ヌ
- ・「としよりのはなし」 逗子教育研究会 38. Z ト
- ・「逗子市文化財調査報告書 第10集 民俗」 逗子市教育委員会 70. Z ア-10

